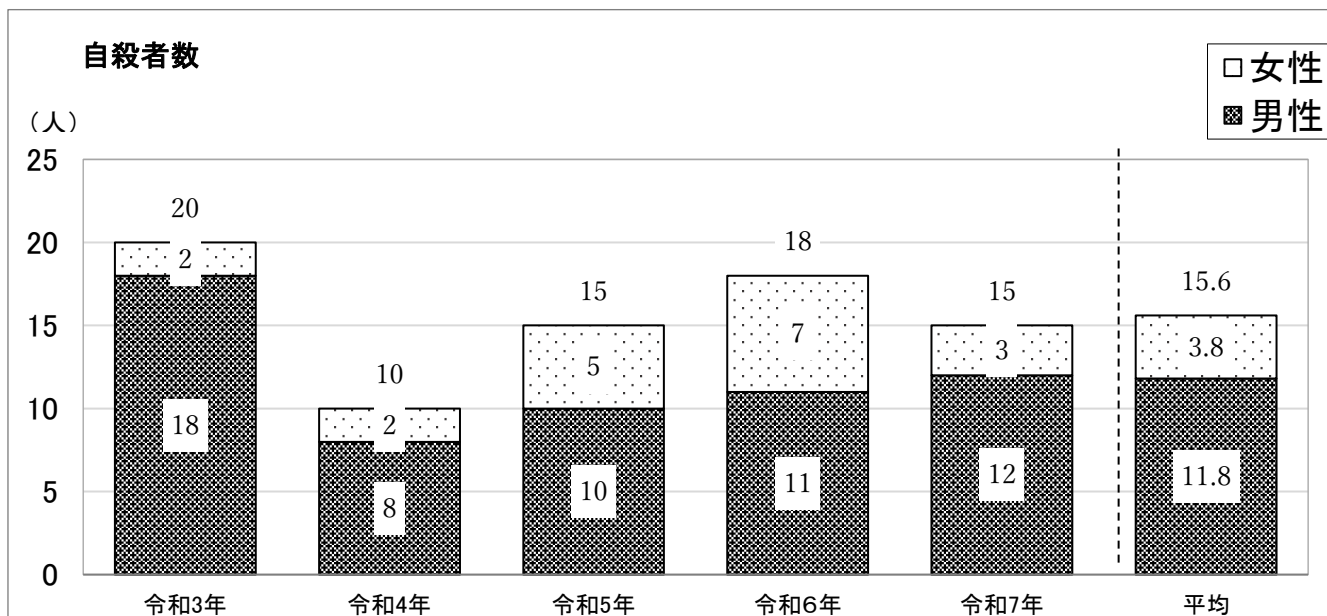


あま市の自殺に関する統計

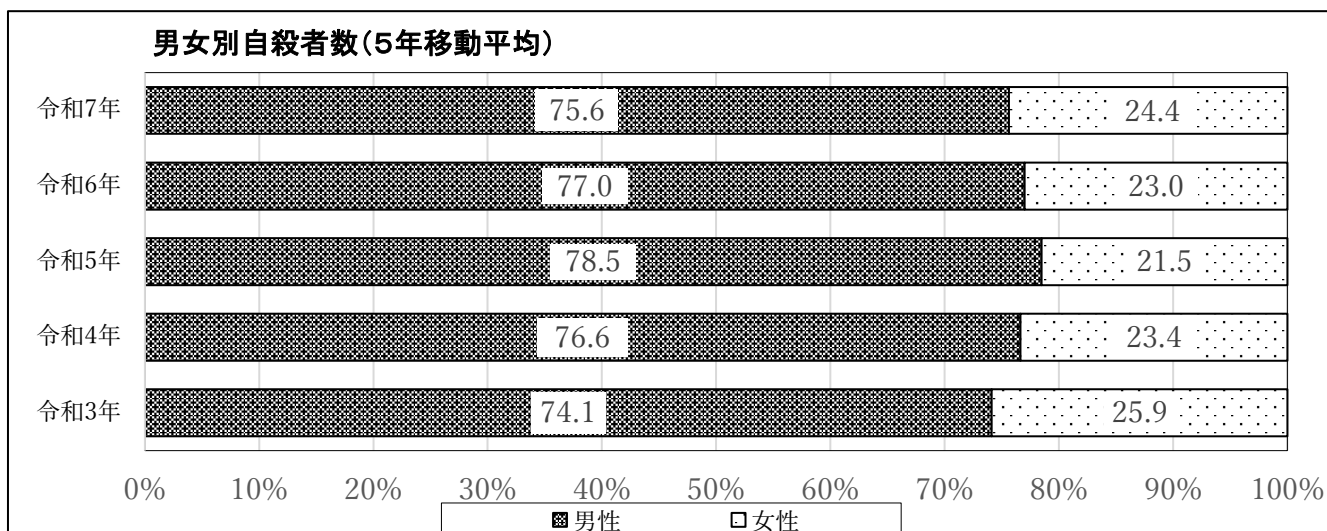
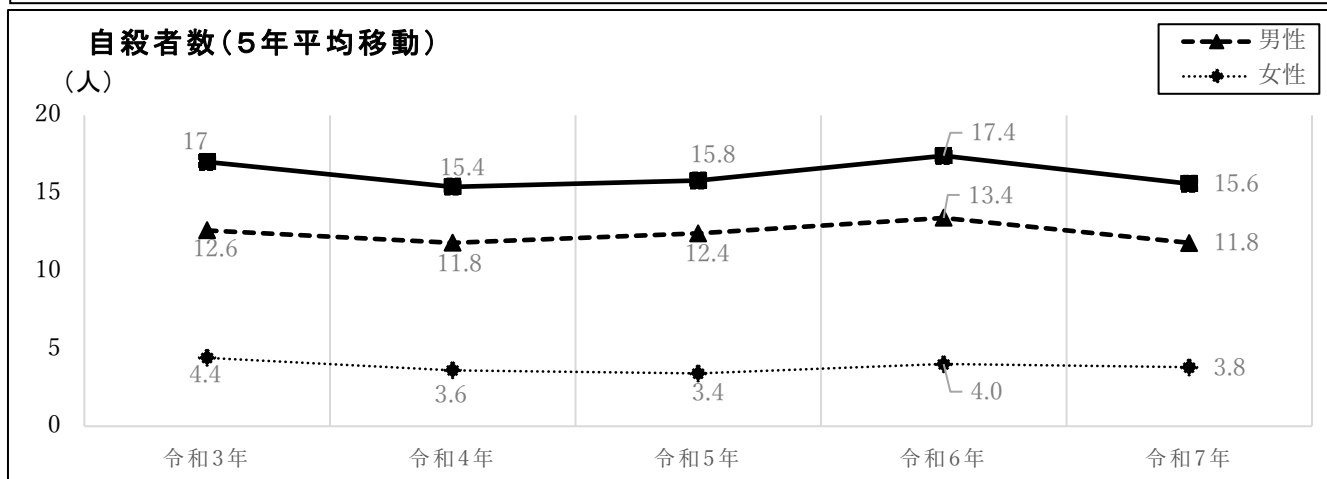
(内閣府・厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より)

1 自殺者数の推移



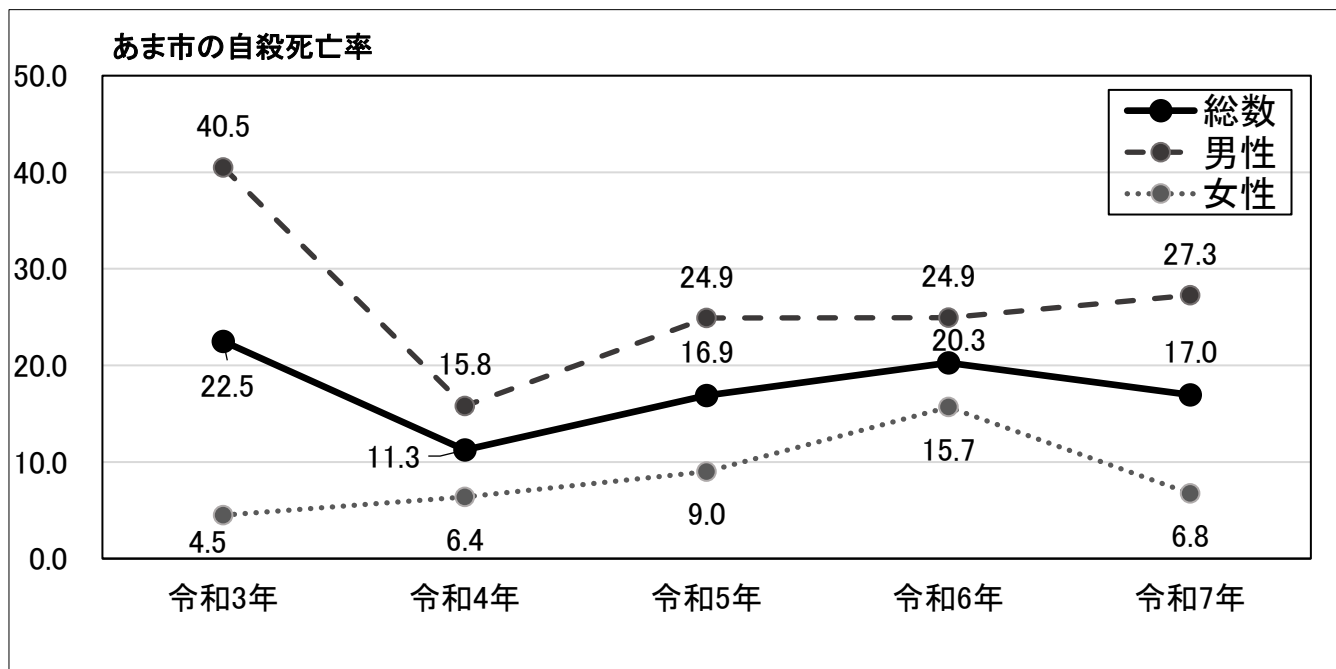
本市における毎年の自殺者数の推移は、令和3年は直近5年間で最多の20人となり、令和4年には10人まで減少しましたが、令和5年が15人、令和6年が18人と増加に転じ、令和7年は15人でありました。

令和3年から令和7年までの自殺者数の平均は、総数15.6人のうち男性が11.8人で女性3.8人の3.1倍となっています。(警察庁「自殺統計」数値)

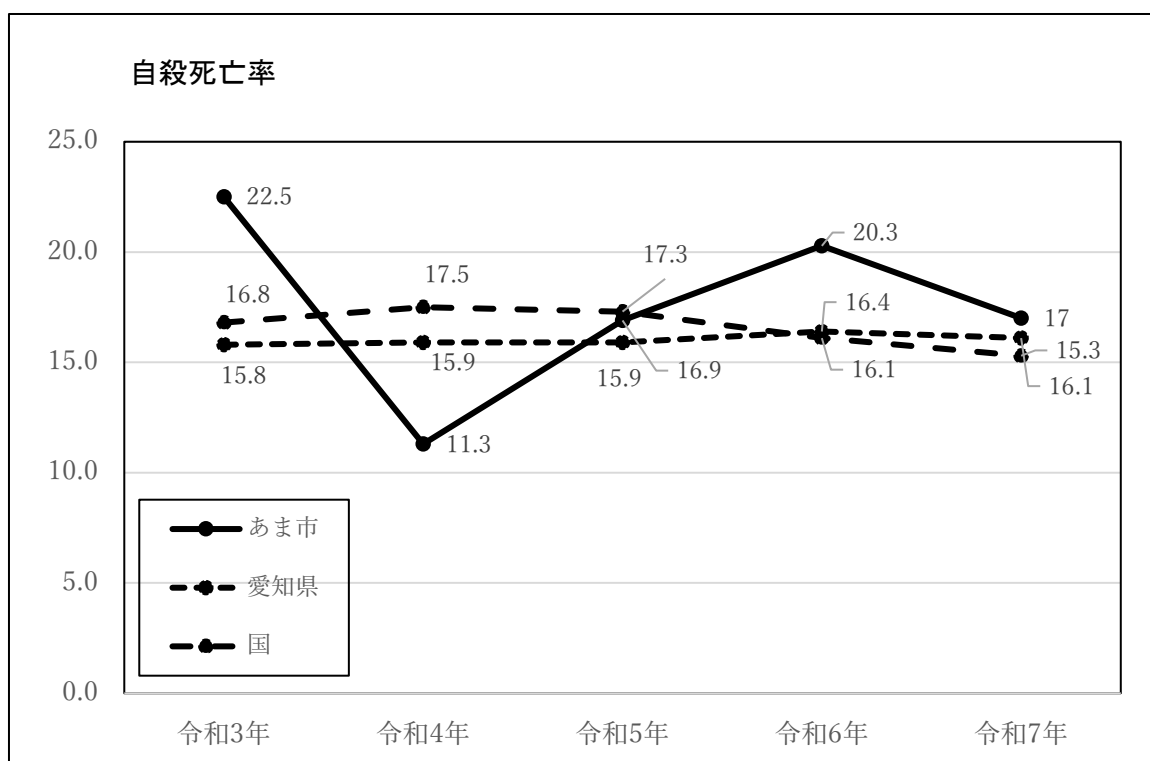


※移動平均とは、変化しているデータがある範囲の和をその個数で割り、その平均値をつなぎ合わせたもので、グラフにおいては、示されている年の過去5年間の和を5で割った平均値となっています。

2 自殺死亡率(人口 10 万人対)の推移



令和 7 年	【国】	全体	15.3	(男 21.5 女 9.4)
	【県】	全体	16.1	(男 21.2 女 10.4)
	【あま市】	全体	17.0	(男 27.3 女 6.8)



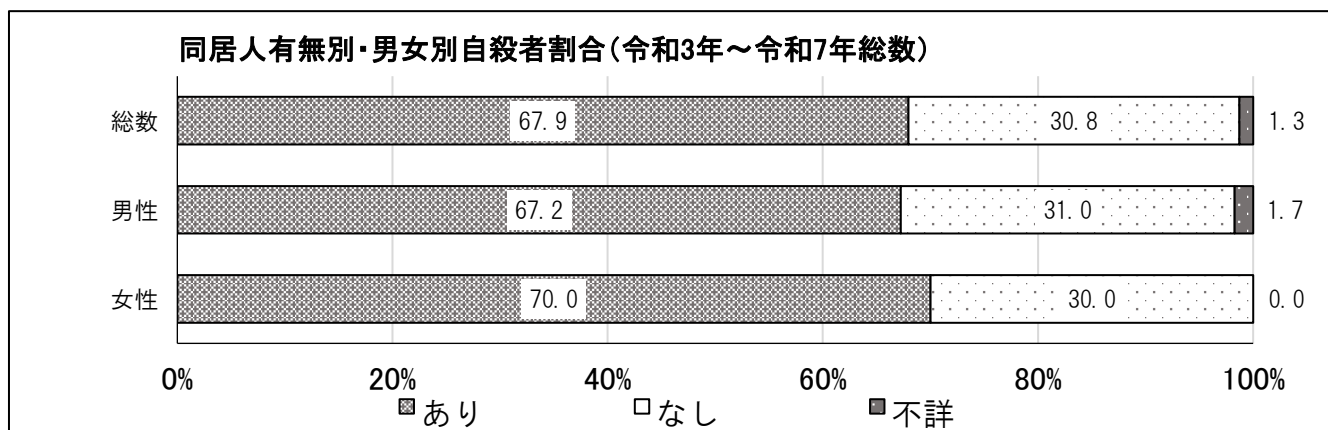
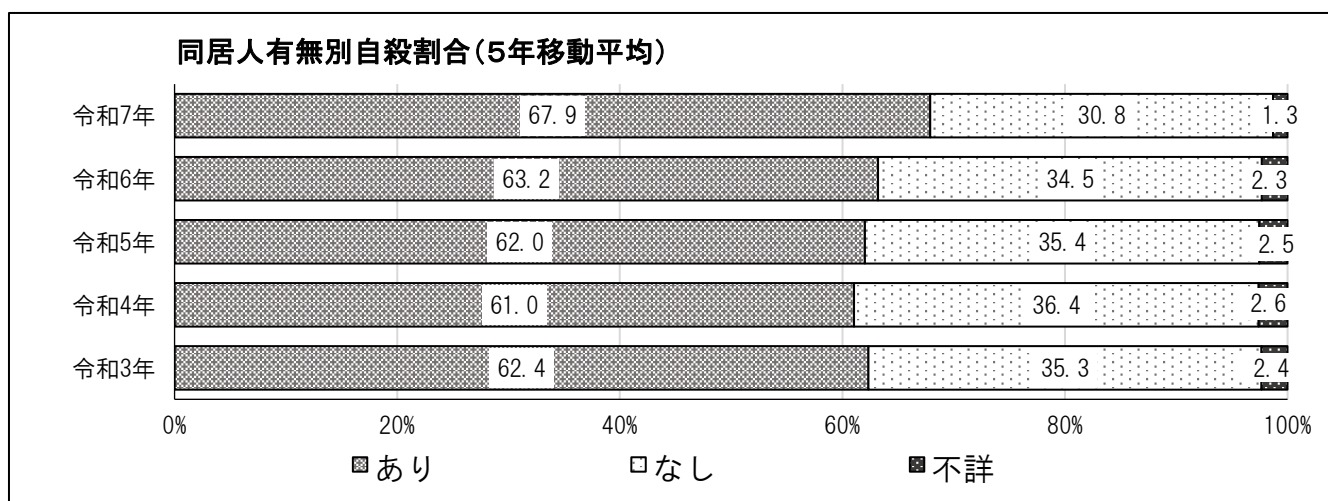
人口 10 万人対で算出した自殺死亡率の推移では、令和3年に高く、令和4年には減少に転じましたが令和5年で再度高くなっています。令和6年では、女性の自殺死亡率が高くなりましたが、令和7年では減少しています。また、国・県の自殺死亡率と比較すると、令和3年は大きく上回っていましたが、令和4年には、国・県を下回っています。しかし、令和5年に増加に転じ、令和6年以降は、国・県を上回っています。

3 年代別自殺者数の推移

年代\年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
19歳以下	0	1	0	1	2
20歳代	1	2	2	2	2
30歳代	2	1	1	0	2
40歳代	3	1	4	3	1
50歳代	8	3	2	4	4
60歳代	0	0	2	0	1
70歳代	5	1	1	2	2
80歳以上	1	1	3	6	1
不詳	0	0	0	0	0
合計	20	10	15	18	15

働き盛りの年代である40・50歳代や、高齢者の自殺者数が多くなっています。近年は、19歳以下及び20代の自殺者数が多い傾向にあります。

4 同居人有無別自殺者割合の推移

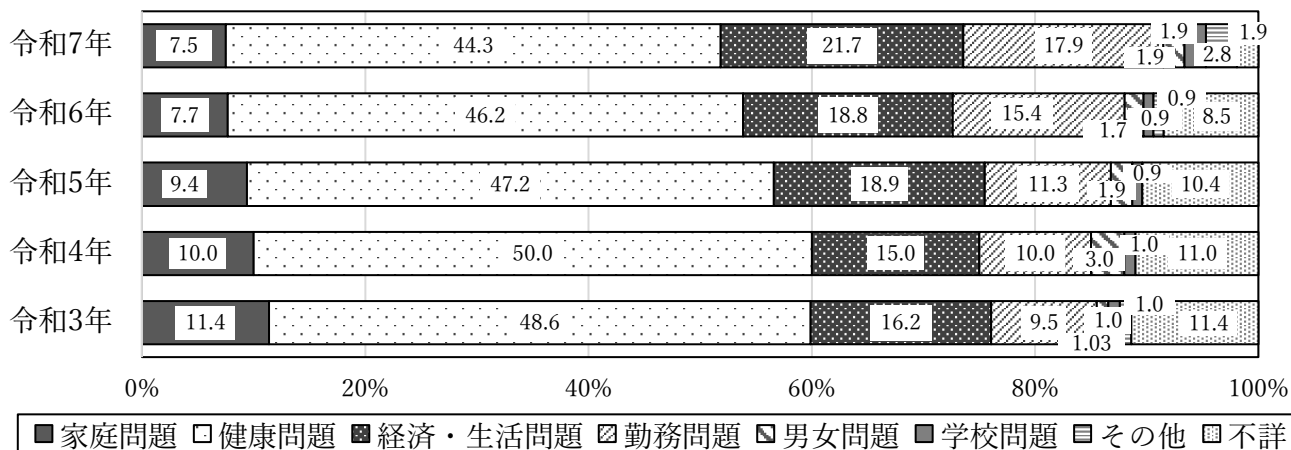


同居人有無別自殺者割合の推移は5年移動平均で、令和3年以降は6割が同居人「あり」で、少しずつ減少傾向にありましたが、令和5年から増加しています。

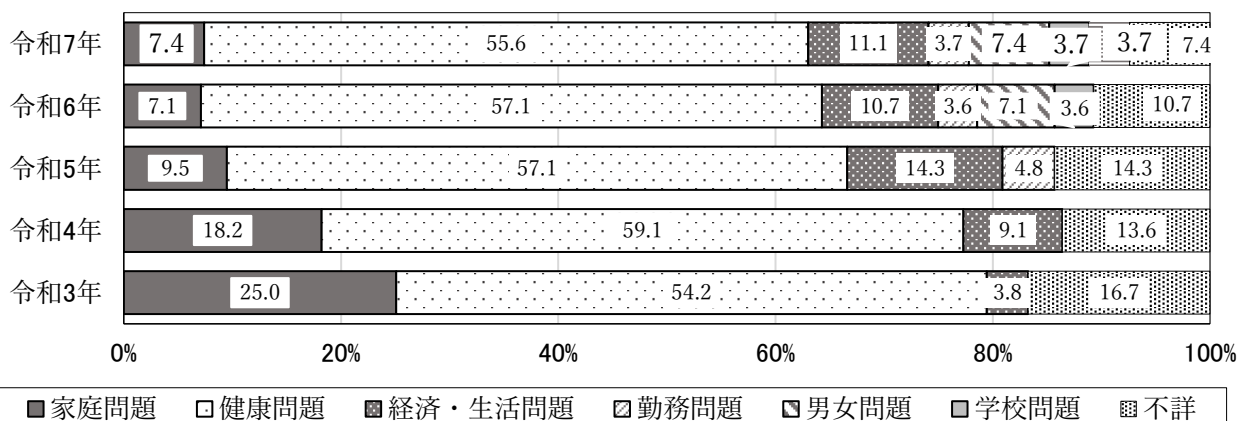
令和3年から令和7年までの総数の同居人有無別・男女別自殺者割合では、男性 67.2%、女性 70.0%が同居人「あり」であり、男性より女性が高くなっています。

5 原因別自殺者割合の推移

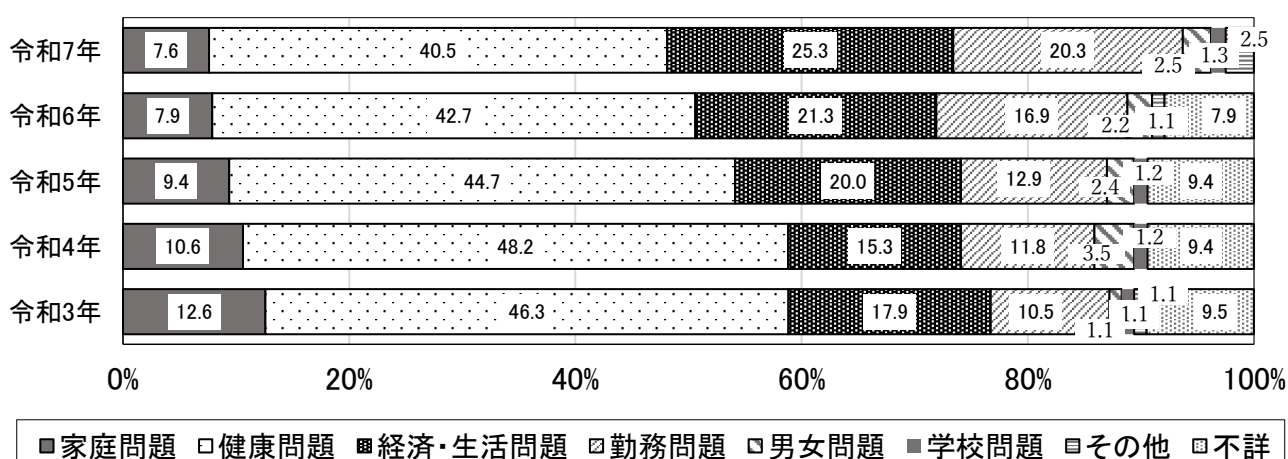
原因別自殺者割合(5年移動平均)【総数】



原因別自殺者割合(5年移動平均)【女性】

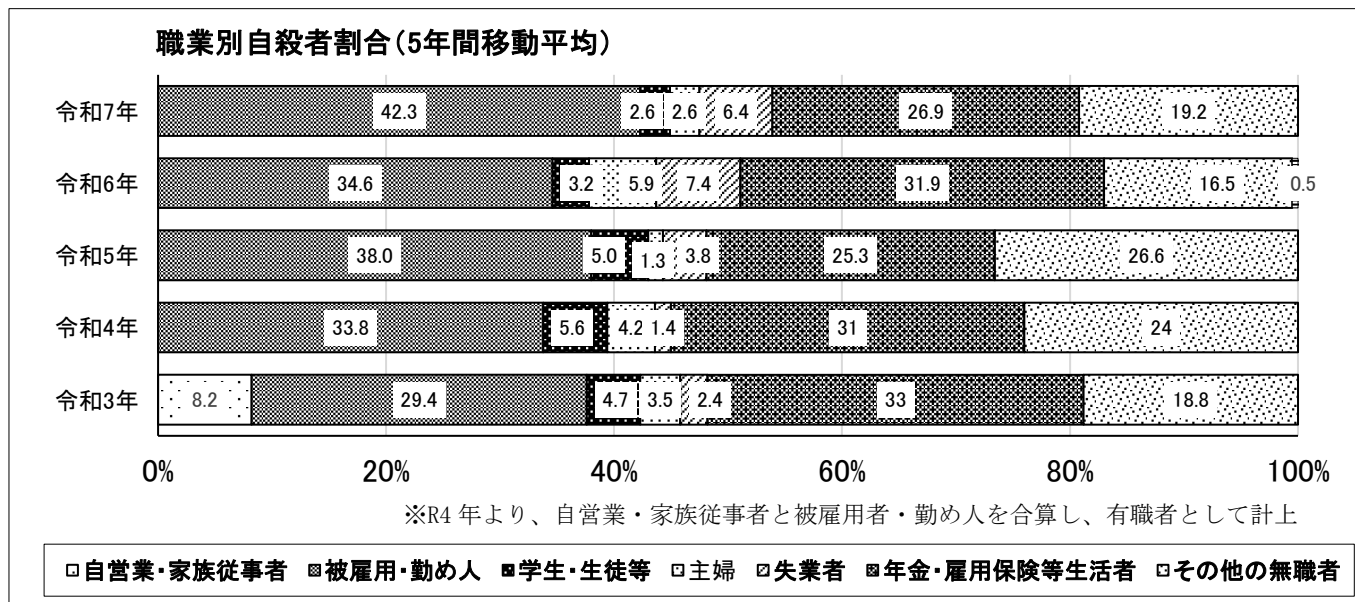


原因別自殺者割合(5年移動平均)【男性】



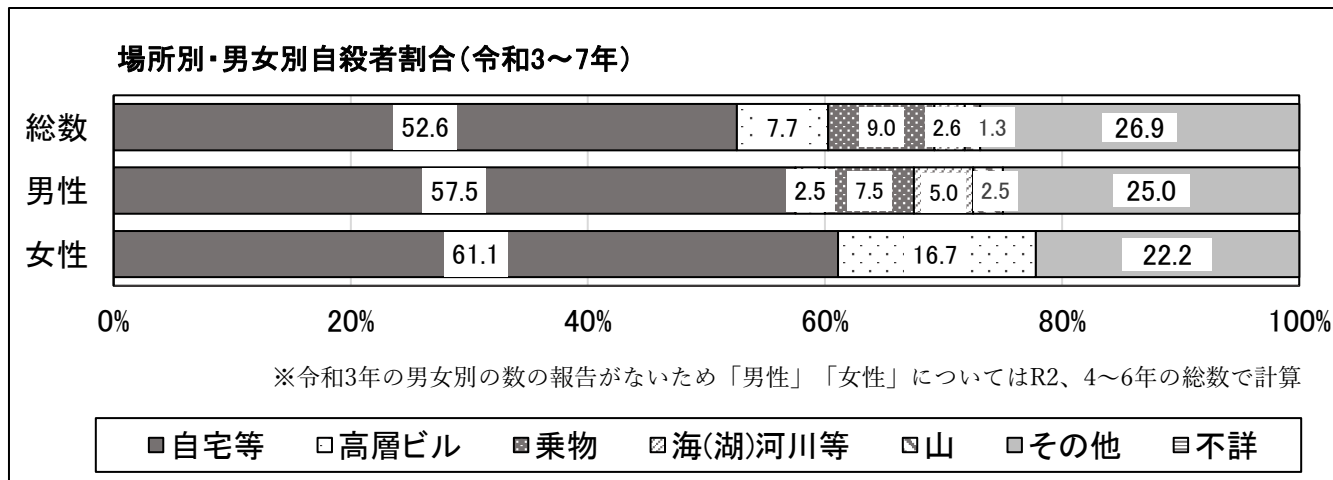
原因別では、毎年「健康問題」が高い状況であり、「家庭問題」と「経済・生活問題」と合わせて約70%を占めています。また、「勤務問題」の割合も高くなってきています。「家庭問題」の割合は、年々減少傾向にあります。男女性ともに、「経済・生活問題」が増加傾向にあります。

6 職業別自殺者割合の推移



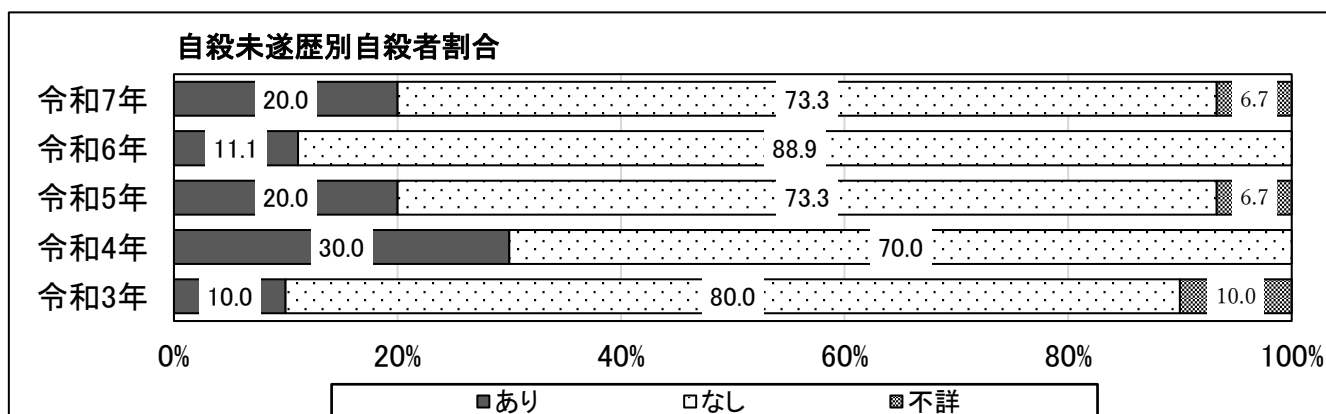
職業別では、「被雇用・勤め人」「年金・雇用保険等生活者」の割合が多くを占め、令和6年には「主婦」「失業者」の割合が増えましたが、令和7年はやや減少しています。

7 場所別・男女別自殺者割合



場所別自殺者割合では、「自宅等」の割合が半数以上を占めています。男女別では、女性の方が「自宅等」に次いで「高層ビル」の割合が高くなり、男性の方が「自宅等」に次いで「乗り物」「海(湖)河川等」「山」の割合が高くなっています。

8 未遂歴別自殺者割合の推移



未遂歴別自殺者割合の推移では、毎年7割以上が「未遂歴なし」となっています。